３. 新聞等に掲載された活動

○放射線リスク制御部門 国際保健医療福祉学研究分野

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
高村　昇・教授	「福島はあなた自身」発刊	福島民報	2018 年 2 月 9 日	東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の教訓を伝える書籍「福島はあなた自身　災害と復興を見つめて」を発刊
高村　昇・教授	原発事故のクライシス（危機）コミュニケーションについて	福島民報	2018 年 2 月 17 日	「福島はあなた自身」読者より原発事故のクライシス（危機）コミュニケーションについての感想
高村　昇・教授	被ばく医療のプロ育成	朝日新聞	2018 年 4 月 27 日	長崎大学は被ばく医療科学研究のため福島県立医科大学との共同大学院サテライトを 2019 年度から鹿児島純心女子大学に設ける。
高村　昇・教授	長崎大学被ばく医療人材育成のため薩摩川内に分室開設	南日本新聞	2018 年 5 月 16 日	長崎大学が薩摩川内市に被ばく医療を学ぶ大学院のサテライトキャンパスを来年 4 月から開校する。
高村　昇・教授	長崎大学へ調査研究資金などの支援金寄付	福島民報	2018 年 5 月 29 日	川内村は包括連携協定を結んでいる長崎大に復興支援や調査研究の資金として寄付金を送った。
高村　昇・教授	放射線被ばくと健康影響をテーマに石巻で講演	河北新報	2018 年 8 月 6 日	放射線被ばくと健康影響をテーマに講演し、放射線リスクは見極めが必要であると解説した。
高村　昇・教授	「長崎くんち」に川内産材無償提供 村にミニチュア贈呈	福島民報	2018 年 8 月 23 日	長崎くんち奉納踊り太鼓山に川内村産ヒノキで組まれたやぐらが登場。川内村と太鼓山応援団の仲介に高村教授が代理で村にミニチュア贈呈
高村　昇・教授	原発事故の影響を学ぶ東日本国際大の川内村セミナー開催	福島民報	2018 年 8 月 24 日	東京電力福島第一原発事故の影響や放射線の健康リスク管理に理解を深める東日本国際大学の川内村セミナーを開催した。
高村　昇・教授	「長崎くんち」と川内村について	河北新報	2018 年 10 月 14 日	長崎市の秋祭り「長崎くんち」太鼓山と東京電力福島第一原発事故で被災した川内村を結びつけた
高村　昇・教授	仏の原子力安全研究所と長崎大学が学術交流の協定	朝日新聞	2018 年 10 月 24 日	フランス政府傘下の放射線防護原子力安全研究所（IRSN）と学術交流協定を結んだ。
折田真紀子・助教	放射線の基礎知識を学ぶ意見交換会を開催	福島民友	2018 年 12 月 1 日	子育て世代の参加者へ放射線の健康不安に関する意見交換会を行った。

○放射線リスク制御部門 放射線災害医療学研究分野

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
山下俊一・教授	「被爆地の医師として」長大・山下教授	長崎放送 NBC N スタ	2018 年 2 月 15 日	被爆地の医師として、放射線にどう向き合うかを追求してきた 27 年の教授人生を振り返る。
山下俊一・教授	福島県立医科大副学長へ就任	NHK イブニング長崎	2018 年 3 月 20 日	福島県立医科大学の常勤副学長（国際担当）に就任し、原発事故の調査や研究、被ばく医療の人材育成を国際機関など

				と連携して行う。

○放射線リスク制御部門 放射線生物・防護学研究分野

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
松田尚樹・教授	放射線 大学が監視網	読売新聞（全国版 1 面）	2018 年 1 月 16 日	大学等放射線施設による緊急モニタリングプラットフォーム構築の紹介

○細胞機能解析部門 分子医学研究分野

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
浦田秀子・教授	日本放射線看護学会学術集会	長崎新聞	平成 30 年 9 月 9 日	放射線業務従事者の全国調査を実施し、指定基準を策定することの重要性について基調講演の内容を紹介した。

○ゲノム機能解析部門 人類遺伝学研究分野

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
吉浦孝一郎・教授	被爆 2 世の *de novo* 一塩基変異解析	NHK 長崎ニュース	2018 年 3 月 30 日	被爆 2 世の *de novo* 一塩基変異解析にもとづく被ばく影響についての口演の様子がニュースで放映された。

○原爆・ヒバクシャ医療部門 血液内科学研究分野

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
波多智子・准教授	血液内科医のための形態・病理診断	血液学 NAVI Vol.4	2018 年 3 月	血液学 NAVI という富士製薬工業㈱企画／発行の雑誌において「血液内科医のための形態・病理診断」MDS の形態診断 2018 と題して、WHO 分類 2016 年改訂版について解説を行った。

○原爆・ヒバクシャ医療部門 腫瘍・診断病理学研究分野

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
七條和子・助教	内部被ばくは低線量爆心地付近　急性死者で初試算	長崎新聞	2018 年 8 月 4 日	臓器の組織標本に残っている長崎原爆特有の放射性物質プルトニウム 239 が今も放出しているアルファ線を調査し、内部被ばくは低線量であることを爆心地付近の急性死者で初試算した。骨髄で 0.104 ミリグレイ。50 年間体内で被ばくが続いた過程での累積は 20.2 ミリグレイだった。内部被ばくの影響は臓器内の放射性物質の集中度合いを考慮することが必要と英ウエブ雑誌ヘリヨンに 6 月 29 日付けで掲載された。

○共同研究推進部

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
林田直美・教授	甲状腺検査結果を報告	岩手日日新聞	2018 年 3 月 14 日	平泉町の住民を対象に甲状腺の基礎知識と検査についてのセミナーが行われ、甲状腺の基礎知識を学んだほか、同町で

				の甲状腺超音波検診の結果が報告された。
中尾麻伊香・助教	被爆地の戦後史研究	長崎新聞	2018 年 10 月 10 日	原研において中尾助教が取り組んでいる歴史研究の活動が伝えられた。

○資料収集保存･解析部　資料調査室（原研情報室）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
横田賢一・助教	シリーズ被爆 73 年「原爆資料・継承の問題」	NHK 長崎放送局　イブニング長崎 NHK 福岡放送局	2018 年 8 月 7 日	原爆投下直後に長崎医科大学の調 来助教授らにより行われた約 6000 人分の被爆者調査の調査票から得られた急性症状に関するデータの再解析を開始し新たに症状の合併等の解析も計画していることが、資料継承の現状と今後の問題として報道された。